



ハットクラブだより

2022年1月
第51号

- ① 会員の皆さんへのメッセージ ② クラブの新しい試み
③ 会員のひろば ④ わたしにつぼん ⑤ クラブからのお知らせ

① 会員の皆さんへのメッセージ

コロナ禍での活動について

会員の皆さん、お元気でいらっしゃいますか？ 早いもので2021年も終わり、新たな年を迎えました。本来ならば、様々なイベントで皆さんとお会いして、楽しい時間を過ごしながら、2022年の抱負を語り合いたいところですが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、そのような機会もなかなか実現できません。思えば、このウイルスに人類が翻弄されてから2年近くの歳月が経ちました。あれだけ街に溢れていた外国人観光客は忽然と姿を消し、日本で暮らす私たちも海外に出かけることもままなりません。感染者の急増と幾度となく繰り返される緊急事態宣言は、私たちの行動の自由を制限し、何よりもつらいことは家族や親しい友人との面会する自粛を求められたことです。

当然のことながら、人と人が出会い交流することを目的にしている本クラブの活動にもコロナ禍は大きな影響を与えました。「英会話サロン」や「NZワイン試飲会」、「NZ文化の集い」などの事業は軒並み中止を余儀なくされ、会員が年に一度集う場である総会ですら、二年続けて書面評決での開催となりました。その中で唯一実施できた事業が箕面メキシコ友の会と共催した「第1回箕面市姉妹都市交流フォーラム」でした。2021年の3月のことです。ゲストに上島一彦・箕面市長をお招きし有意義な議論を交わすことができました。ただ、対面ではなくオンラインの開催になったため、ご参加を希望されても叶わなかった会員の方もおられたと聞いています。大変申し訳なく思います。

さて、今後の展望についてお話したいと思います。コロナ禍については、残念ながら現段階で見通すことはできません。ギリシア文字のα(アルファ)から始まった変異株はo(オミクロン)まで進化し、引き続き私たちの生活を脅かしています。コロナ禍の見通しが立たないことは、姉妹都市交流や本クラブの活動の見通しが立たないことを意味します。

阿部 一郎



阿部会長

ただし、私たちも二年の間にコロナウイルスについて多くの知見を得ました。コロナ禍だからオンラインといった短絡的な発想ではなく、対面にこそ国際交流の醍醐味があるとの認識のもと、感染対策を万全にした上で、地域で暮らすニュージーランド出身の人を囲む小規模の催しを積み重ねていければと思います。それらの催しに会員の皆さんが年に一度でも足を運んでいただければ、会員の絆は維持され続け、必ずやアフターコロナの時代に花を咲かせることができると確信します。

最後になりましたが、会員の皆さんのご健康とご多幸を祈りつつ、国際交流の場で再会できることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

過去のイベント風景



コロナを通じて得られたもの【ニュージーランドの映画鑑賞会】

河野 寿一

皆さん、NZ の映画って言ったら何を思い描きますか？ロードオブザリング、中にはラストサムライを挙げられる方もいらっしゃるかもしれません。古いところではイルカに乗った少女、最近ではハントフォザワイルダーピープルなどでしょうか。

▶ 映画「COUSINS」について

NZ は自然の美しさからロードオブザリングを始め多くの作品の撮影地として映画産業では脚光を浴びている場所です。そんな中で私のお気に入りの映画「COUSINS (従妹)」を紹介したいと思います。この映画は2020年10月にロードショー、NZ 国内と一部オーストラリアで上映され多くの反響を呼んだ作品です。ストーリーはマオリの3人の従妹の少女期から人生の後半までのそれぞれの人生を「伝統を守る」「社会と戦う」「静かに生きる」という3様のマオリ女性として生きるということを描いた作品です。イベントの開催が困難な今、なんとかこの映画を通じて皆で NZ の事を理解出来たら、と考え映画の感想会を企画した時の話をしたいと思います。

▶ コロナだからこそ新しい出会い

この映画はあくまで NZ 国内向けの映画なので、一回見ただけでは理解できないことが沢山ありました。まずもって「COUSINS」というタイトルからして日本人として「ピン」と来ない人も多いと思います。特にマオリ語の部分や

当時の現地の生活感が掴めず、どうしてもそのニュアンスが判らない部分があったのですが、幸いネットで知り合ったオークランドに住む Yuka さんという方が2年間マオリ語を勉強されていたので、その方とメール・ZOOM などを通じて、ご支援を得ながらなんとか日本語字幕を付けてひとつの形とすることができました。

また、映画の感想会でも NZ に住んでる日本人として、あるいはマオリの生活を通しての見方など色々な角度での意見を聞くことが出来て話が盛り上がり、予定の時間をオーバーすることになってしまいました。



コロナのせいで多くの活動が制限される中、ZOOM などが身近になったり直接会えないもどかしさから、ネットを通じて人が繋がることで、新しい関係が始まったことも大きな変化です。私にとっても今回出会えた大切な友人はかけがえのないものとなりました。

ハットクラブも25周年の節目を超え、現地の KIWI の方だけではなく多くの現地に住む日本人ともネットを通じて連携をとりながら、家族ぐるみでよりいい関係を築けるプラットフォームとして、これからも続けていけたらと思っています。

新しい試み（グループメールの活用）

窪 敏夫



コロナ禍で大人数が集まることが難しくなり、イベントが開催できない状態が続いて来ました。そこで、小さな集まりであっても親睦を図って頂こうと、趣味の会など会員によるミニグループの活動を提案し、お手伝いすることにしました。

趣旨についてはすでにご案内の通りですが、運営委員会にチラシを送って頂ければ、グループメールで会員にお知らせします。メールはほぼ全員に繋がっていますので、会員約70名に一斉配信ができます。折角の連絡網なので、是非ご活用下さい。内容はどんな物でも構いません、チラシを送って頂ければ結構です。

尚、グループ運営そのものは個人にお任せしたいと思いますので、運営委員会の役割は配信までと致します。

これまでご連絡頂いたものとして以下の会があります。

- ニュージーランドの植物とハーブを楽しむ会
- ニュージーランドの映画鑑賞会
- ロワーハット：最初の庭園都市 読書会
- ラテンダンス・サルサを楽しむ会



その内、「ニュージーランドの映画観賞会」に参加させて頂きました。映画は「Cousins」という題名で、日本では上映されていない作品です。主催者の河野さんが NZ から DVD を取り寄せて、字幕もご自身で入れたそうです。内容は従妹同士の三人のマオリ少女が成長して違う道を歩み、長い時を経て再会するまでを、第二次大戦後のニュージーランドを舞台に描いたものです。一番上の従妹の苦しかった人生を中心に描かれて、最後は一族の元に自分の居場所を見つける物語です。それを演じたマオリ女優の演技が光る映画でした。

またその時ニュージーランド在住10年の若い日本人ご夫婦がオンラインで参加され、この映画の背景や現地の生活を紹介してくれました。お話の中で「ここは日本の田舎のような素朴な土地柄です。最初は会話が早すぎて聞き取れず何度も聞き直しましたが、相手は嫌な顔もせず何度でも繰り返してくれます。でもスピードは変わらず……。しかし、それは自分達をこの土地の人間として受け入れてくれている証だと感じました」。ちょっと笑えて、温くなるエピソードでした。



「ロワーハット 最初の庭園都市」読書感想

松尾 隆祐

37年も前になりますが、ニュージーランドの研究
所から出た電気回路に関する論文を読んだことがあります。
面白い研究論文でしたが、それと同時に研究所の所在地
Lower Hutt も珍しい市名として記憶に残りました。

今回、当友好クラブ英会話サロンと、とりわけ、デイ
ビッド・マギル著・箕面市ハット市友好クラブ訳「ロワー
ハット 最初の庭園都市」によって同市と再会すること
になりました。

世界史を見ると、コロンブスの時代から中南米、北米、
インド、アフリカなどの各地にヨーロッパ人が到来しはじめ、
在来文明に悲惨な状況をもたらしました。その後、現在に至る
600年間に、圧倒的な文化力の差によってその状態の多くが
既成事実として確立しています。

文化力とは、この場の造語ですが、それは言語、法律、
文学、芸術、宗教、科学、哲学、教育、工学、医学、産業、
商業、農業、交通、社会・経済制度、政治制度、軍事制度、
世界観、社会観、自然観、歴史観などの人々の集団をまとめ、
永く継続的に特徴づける様々な要素の集まり全体を指し示す
語のつもりです。二つの文明が向き合うと、文化力の差とい
うべき状況が生じます。

「ロワーハット 最初の庭園都市」によると1800代
の前半にマオリとヨーロッパ人（主にイギリス人）の間に
接触がありましたが、そのころすでにマオリの人たちに銃
（マスケット）が売り渡されていたとあります。マオリた
ちの部族抗争は当然激しくなります。イギリス人たちとも
対立します。しかし、イギリス人たちは別の見方で自然を
見ていました。この気候でこれだけの土地があれば、小麦
が何トン採れる、牛が、羊が何頭飼える、それで何家族が
生活できる、その土地はいくらで売れる等などの見方です。
土地の所有を巡ってマオリ人たちとの間に戦いが起こり、
イギリス人の間でも対立と勢力争いが生じます。しかし、
対立しながらもまとまって行く社会は大きい文化力をもつ
社会です。

そのころ日本では徳川末期から明治維新（1868年）
の時代ですが、ヨーロッパではフランス革命などで普遍的
人権の考えが一般化しました。合法的に移民国家をつくる
ことが模索されたのでしょう。コルテスやピサロの時代と
は違います。

ニュージーランドはそれ以降、現代までマオリ文化を
尊重しつつ、強い文化力によって、イギリス、とりわけ
スコットランドの伝統を感じさせる国となっています。文化
力の差が拒みがたい非対称性を生んだと言えると思います。

こんなことを考えながら「ロワーハット 最初の庭園都市」
を読んだのですが、書物のおわりに近いところに、若き日
の明仁上皇が皇太子として同市にある DSIR（科学工業
研究省）の研究所を訪問されたときの写真が出ています。

もう一つ、はじめに触れた電気回路に関する論文は、
DSIRの物理学・工学研究所から出されたものですが、その
核科学協会に設置された Van de Graaf 加速器も大きい写真
で紹介されています。これは、ニュージーランド出身で、
原子が原子核と電子からできていることを証し、 α 線、 β 線、 γ 線
を発見したノーベル化学賞受賞者アーネスト・ラザ
フォードに由来することでしょう。

そんなことからこの本に親しみを覚えました。しかし
それは本書のほんの一部の話で、その他に数々の珍しい
植物のこと、マオリ文化、市民の美しい庭園、ハット川の
度重なる洪水、大地震、市の政治、首都ウエリントンとの
関係等々いろんな興味深いことが出て来ます。例えば婦人
参政権を世界で最初に実施したのは1893年ニュージー
ランドだそうです。ジャシンダ・アーダーン首相の安定感
も納得ですね。マオリ語の読みにくいカタカナ表示が無数
に出て来ますが、それに耐えるだけの甲斐があると感じま
した。皆様に通読をお勧めします。



七十の手習い

野村 太持

英語が話せたら好きな海外旅行をもっと楽しめるのにと
 常々思っていました。また仕事で朝6時頃より車で通勤し
 ていたおり、放送はNHKが大好きで、NHKのラジオ放
 送第一が通勤の伴でした。しかし6時30分になるとラジオ
 体操が始まり、止む無くNHK第2の「基礎英語」、「ラ
 ジオ英会話」をなにげなくいつも聴いていました。英会
 話の後に続くドイツ語とスペイン語の講座も聞きました。
 ドイツ語およびスペイン語は解りませんが、講座に取り上
 げられる物語が日本語に訳され、その話はとても面白かつ
 たです。

例えばドイツ語講座では滝廉太郎、森鷗外留学中の話、
 およびドイツ人設計者によるベルリンの都市計画の話等が
 記憶に残っています。またスペイン語講座ではスペインに
 残る昔話を取り上げられていました。たまに聴くイタリア
 語講座の話の内容は、浮気と不倫のお話でした。語学の
 講座の内容にも、お国柄が出ているようでした。

仕事をリタイヤしたのを機に、NHKのラジオ講座のテ
 キストを購入し英会話と取り組むようになりました。また
 孫娘がニュージーランドのパーマストンノースでホームス
 テイをすることになり、ニュージーランドのハット市と箕
 面市が姉妹都市であることなどを知り、さらにニュージー
 ランドと英会話に興味を持つようになりました。

箕面市発行の「もみじだより」で国際交流センターでの
 ファテメ・モタバリプールさんの「英会話入門」募集をみて、
 その講座に参加しました。千里中央の「NOVA」にも1年
 間通いました。英会話は全く上達しておりません。21才
 までは教科として英文法、英語を勉強しましたが、それ
 から69才まで全く英語には縁が有りませんでした。まし
 てや英会話などは生まれてから69歳まで皆無でした。

ネイティブの人達と話すのは東生涯学習センターでの
 「英会話サロン」が初めてでした。

そこで英会話を通じて色々なテーマについて話される
 内容はとても興味深いものでした。



英語のことわざに「老犬に新しい芸を教えることはでき
 ない」。また日本でも約750年も昔、吉田兼好が「徒然
 草 百五十一段」で「年五十になるまで上手にいたらざら
 む芸をは捨つべきなり」と記しています。全くその通りな
 のかと自問しながら英会話に取り組んでおります。しかし
 約170年前の江戸時代の「神奈川沖波裏」等の絵師、
 葛飾北斎は70才を過ぎてもなお波の描写について探求
 したといわれています。天才と比較しようはありませんが、
 気持ちだけは北斎の気持ちを持ち続けたいと思っています。

最近、ドナルドさんの教室にも通っています。そこ
 でも英会話は全くですが、取り上げられるテーマ等が英語を
 通じてしか得られない考え方に出会い、とても興味深く楽
 しんでおります。「英会話サロン」でお会い出来たニュ
 ージーランドからの人達、メキシコからの人達を我が家へ招
 き、タコス等のメキシコ料理、日本の家庭料理の食事は
 楽しい思い出になっております。またある時は、孫娘が学
 校で第二外国語にスペイン語を選択しおり、我が家でクラ
 ウディアさんの手ほどきを受けることもありました。

「人には添ってみよ、馬には乗ってみよ」私の母親が
 良く云っていました。語学を通じての色々な人達との交流を
 楽しんでおります。



My Japan

Ryan Dempsey



It has been just under 4 years since I left New Zealand to start a new life in Japan and whilst I may have initially been a bit worried about living by myself for the first time ever, I feel like I have matured a lot as a person since coming here.

In an effort to better adapt to life in Japan, I have been using every chance I can get to study and practice Japanese.

Whether it's asking questions to store attendants or just talking with my co-workers, I find that every conversation helps me to slightly better understand Japanese and Japanese culture.

Being a huge history nerd, one of my favourite things to do since arriving in Japan, is travel around the country visiting different shrines, temples, and museums. I have always loved learning history and the fact that it is so easy to access historical informa-



Ryan Dempsey
嵐山にてボートを楽しむ。4年前よりALT
英会話サロンでは明るいインストラクター

tion here makes me incredibly happy. Whenever I travel, I always make sure to research any shrines or museums that I may be staying near, and I always carry my stamp book, so I can keep a memory of every shrine and temple that I have visited.

While there are times that I miss New Zealand, I am glad that I decided to come to Japan. I have met old friends, made new friends, and been able to do the things that make me truly happy such as, participate in martial arts (Karate and Judo), teach English to both Elementary and Middle school students, and learn more about Japanese history.

I wouldn't change these experiences for anything else in the world and am looking forward to what the future has in store for me.



Happy Challenge

Zea Rose

When I moved to Minoh I didn't know anyone. I was both nervous and excited about moving to Osaka, but honestly, I didn't know what to expect. Would I make friends? Would I get on with my coworkers? Would I like the city? The unknown was a bit intimidating, but I looked forward to the challenge.

Once I arrived in Minoh and settled into a rhythm, I realised how lucky I was. I got to work with wonderful people and over time built a solid community of friends. I figured out where things were and stopped relying on maps, Minoh became familiar, it became home. It also resembled my home in New Zealand in some ways, being nestled at the bottom of forested hills.

A highlight of my time in Minoh is the people I got to meet. I spent time with people from the Hutt Club, Tomo no Kai, MAFGA's Comm Cafe and learned a lot from my time with all of them. I also traipsed all over Minoh, I went to Katsuoji, yuzu picking in Todoromi, vege farms in Saito, to a mini tea ceremony at Saikoji, cooked at Comm Café, and wandered up the path to the waterfall more times than I can count. I saw wild monkeys for the first time, they were a lot bigger than I imagined!

I received a lot of care and kindness from people in Minoh, I hope that I was able to give just as much.



Zea Rose キウイパーティーにて
昨年夏まで箕面市役所でCIRをつとめられました
国内でご活躍です



ALT Assistant Language Teacher (外国語指導助手)
CIR Coordinator for International Relations (国際交流員)
ALTと同じくJET programme (The Japan Exchange and Teaching Programme)の内の1つ

What I think about coming to Minoh from NZ(Wellington).

Kent Morris



Kent Morris

昨年11月に新しくALTとして箕面市に着任されました

My name is Kent Morris and I am from Wellington, New Zealand.

As of 2021, I was fortunate to be given the opportunity to travel to Minoh, explore Japanese culture, and teach English as an Assistant Language Teacher through the JET program.

It has been one month since I arrived in Minoh city, but already I've been emerged with splendors beyond my expectations. Only 4 km from my apartment, I walked to the Minoh falls where I was surrounded by a refreshing green forest and red maple trees. Along the way, I was able to see various stores, historical temples, and even the wildlife and monkeys. I think Minoh city is a fantastic place, and I've realized there are a lot of similarities with my hometown. I am still able to take a small walk to see beautiful scenic nature while in the convenience of a big city. Like in Wellington, there is a strong sense of community with many exciting events and festivals that we are encouraged to participate in. One thing I won't miss about Wellington will be the weather. For once it is nice to escape the Wet Windy Wellington, and enjoy the warm summers and winter snow Japan has to offer. It is nearing Christmas, and although I will miss spending the Christmas summer and barbecues with my family and friends in Wellington, I'm sure I will find many new friends among the amazing community we have in Minoh City.

I am always ready for a new challenge, and I am excited for what is yet to come.



5 クラブからのお知らせ

1. 役員と本年度の行事について

今年度の役員は前号・No.50(2021年6月)上でお示したとおりです。

行事・予定活動につきしては、期待されたワクチン接種が進み、感染者数も劇的に減少しましたが、新型コロナウイルスの新株・オミクロンの蔓延も懸念されます。そのような状況のなか、恒例の行事は昨年度同様、中止を余儀なくされました。

英会話サロンは新規感染者数が減少したのを期に11月のみ、一定の感染防止措置を継続してなんとか開催できました。

なお、「第2回姉妹都市交流フォーラム」は、3月に対面での開催を予定していましたが、1月のオミクロン株感染の拡大により、春以降に延期いたしました。改めてご連絡いたします。

対面でのおつき合いが思いどおりにならない今、この会報も大切なコミュニケーション・ツールのひとつになりました。

2. 新しいイベントあるいは活動の試み

対面での参加が制約をうける状況ですが、会員の皆さんのリード、ご協力もいただいて、新たな交流、交換の動きをも期待されます。今回の会報の中でもそのことを紹介しています。

ハット市史「ローワーハット 最初の庭園都市」の読書会などの集いがかたが来ますように。興味のあるかたは運営委員までお問い合わせください。改めて主催者を紹介します。

3. 会のあり方について

余談を許さないコロナ状況ですが、会員、約65名の方々がより盛んな活動を期待されています。私達の活動について、ぜひとも皆さんからアイデアをお寄せください。

会の運営は会員一人一人による支えがあって成り立っています。

今後とも、よりスムーズな運営、会員相互の交流や若い方々にも親しまれる会を志向してまいりたいと思います。花見(4月)、そして重要な総会(6月)、NZワイン試飲会など、数々の行事が従来どおり開催ができますことを祈念しております。

編集後記

半年前発行の50号は特集号でした。今回は従来に準じた記事内容で、2020年1月から数えて2年ぶりのものとなります。長いブランクにも関わらずご寄稿いただきました皆さまに感謝いたします。

また、編集に関わるデジタル紙面作成は会員の方のご協力によりデザインされています。この紙面をお借りして感謝を申し上げます。

この度、編集担当を片芝賢治・加藤俊明から、私共へ引き継ぎました。今後ともよろしく願いいたします。

■発行日：2022年1月

■編集担当：加藤俊明、山根ひとみ